

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402150		
法人名	株式会社 あすなるの森		
事業所名	グループホームあすなる		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	令和7年8月9日	外部評価結果確定日	令和7年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvCd=4271402150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設内にて手作りの食事とおやつを提供している。
・大浴場を設置しており、車椅子の方もシャワーキャリーで、浴槽内に浸かり入浴することができる。
・専門職(介護福祉士、作業療法士等)による、レクリエーション、日常生活動作の支援を行っている。
・往診(木戸医院)、訪問看護師(こびっと訪問看護ステーション)と連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ハード面に関しては敷地内に浴室を増築して誰でも容易に肩まで浸かることのできる環境を整えると同時に、お風呂に出かけるという、一種のエンターテインメント感もあり魅力的な空間での入浴ができる。また災害対策の備蓄品を用いた調理訓練を実施しており、食べ物に火が通る時間を計測したり硬さを確認する等実際に備えた訓練に着手している。
ソフト面においては管理者の職員に向き合う姿勢が真摯で温かく、意見を言いやすい風土を醸成している。この流れが職員の意見の反映へと繋がり、最終的には働きやすい職場作りに行きついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかにいきいきと自分らしく」 毎月の会議で理念の確認を行い、共有している。モニタリング・ケアプランへの繁栄と実践に向け、入居者様と家族様との意見交換を行っている。	法人理念は支援方針の軸となると同時に、職員の働き方にも繋がる内容ということであった。利用者に向けた支援の軸として「自分の親族を入居させられる事業所」を掲げ、職員に向けた内容としては自分らしく生きる考え方や、この職場で働く意味を管理者は職員に分かりやすく説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1～2か月に1回、地域の美容室の方に訪問カットに来て頂いている。 近所にお住まいの方と家庭農園について話したり、関わりができてきている。	地域との繋がりを深化していくことは事業所の課題の1つであるため、毎年地道に輪を広げる工夫を行っている。管理者は挨拶に出向いたり近隣の地主さんと関わりを持ったり交流を続けている。この取組みが功を奏してか、地域住民の口コミに起因する入居の問い合わせが少しずつ出てきているとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験を実施し、認知症高齢者の方々に対する対応や実際場面の出来事を一緒に学習している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて頂いたご意見を管理者にて共有し、その後職員へ伝えることでケアの向上に繋げている。	運営推進会議は定期的開催されていることを案内や議事録等から確認した。運営推進会議は毎年、設置規程に基づき実施している。運営状況の説明を行った後に意見交換を行うスタイルで、この場で挙がった意見は職員会議の場で全体に共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各連携機関と情報共有を行い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	事業所の所在する管轄の機関と連携を図っているが、一番関わりがある機会は運営推進会議の場とのことであった。内容としては運営基準に沿ったサービスが提供できているか確認することや加算関係の問い合わせが中心のことであった。その他、事業所の近くを流れる川に草が茂っていたが、大雨でゴミが詰まると河川の氾濫につながるため問い合わせを行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で研修を行ったり、資料等をスタッフで共有している。 3か月に1回、身体拘束・虐待委員会より、会議時に全体報告を行っている。	身体拘束や虐待に関する研修は内外部合わせて年に3～4回実施しているとのことであった。内容としては基礎的知識の習得や確認、ケース検討が中心であった。この項目において事業所が一番力を注いでいるのが不適切なケアに該当するような言動の削減と、普段から話しやすい雰囲気を作っている点である。特に後者はストレスケアに繋がっており、職員からの声で上がっていた休憩室の改築は功を奏している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内だけでなく、グループ内会議や研修会に参加し、その内容を職員へ共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加した内容を共有し、支援に活用できるよう取り組んでいる。今後さらに研修等を活用し理解を進める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度家族様への連絡対応を行い、確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様より頂いた意見や要望を、現場での業務に反映できるよう取り組んでいる。	家族との会話は多頻度に面会に来る方もいればそうではない方もいてまちまちであるが、できるだけ関わりを持ち希望や意向の確認を行うようにしている。意見の反映の一例として、親子で推しアーティストのライブに外出したいという相談があり、事業所の車いすを貸して実現した。このように利用者がいきいきと自分らしく生活ができるよう可能な限り声を反映してく方針であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体での月次会議を行い、ミーティングでスタッフの意見を聞いている。	毎月定期的に行っている会議は事前に検討議題を職員に提示することで意見の出やすい仕組みを作っている。また話し合っただけで決まったことは職員会議のノートで共有を図り不在の職員も把握できるようにしている。管理者はできるだけ職員と接する機会を持ち、ちょっとした要望や希望にも耳を傾けて働きやすさの延伸や処遇改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得のための研修費を負担している。向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内や参加を促している。月次会議でのミーティング後に、スタッフでの研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関連での研修会、勉強会の案内を行っている。相互訪問等は、感染症の観点より行えていなかったため、今後行っていきたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話を通して、利用者様の不安に思っていることや困っている事を伺い、支援していくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いに耳を傾け、信頼関係を築いていこう、心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、ニーズを見極めサービスに繋げていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から教わる事も多く、敬い出来ないところはお手伝いをするといった、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを送付し、ホームでの出来事や気づきなどをお知らせし、関係が継続するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人だったり、老人会の方など面会来られた方と、ゆっくり和やかに過ごして頂けるように環境を整えている。	感染症の懸念がありつつも、馴染みの場所への外出や人との接触に関して特に制限を設けることなく実施している。特定の人や場所との関係が希薄な方でも年間数回ドライブ外出を行い、その風景を見て懐かしむ利用者がいるとのことで、今後も計画的に外出を行う方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	貼り絵などを共同で作成し、一緒に仕上げ喜びを感じて頂くことで、利用者様同士の関係が良くなるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者にて情報の共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との情報共有、コミュニケーションを重ねて、その人に合った暮らし方に近づけるように努めている。 (居室の環境作りなど)	入所前に情報収集を行うとともに、幼少期から入居前までの生活の様子に関するアンケートを実施することで、利用者とのコミュニケーションのきっかけづくりや環境整備に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生き立ちや生活状況、病院歴、サービス利用の把握や確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に目配り、気配りをし生活リズムを把握、記録してスタッフ同士で確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員のモニタリング、ご家族様の意向や本人の思いを元に、意見交換して介護計画を立てている。	3か月に1回のモニタリング会議の他、毎月の会議や普段のコミュニケーションの中で利用者の状態についての意見交換をしている。モニタリングの場においては、介護職員だけでなく、作業療法士による評価もしており、より専門性の高い介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分量、排泄等、個人記録に記載し把握に努めている。食事量の少ない方には、栄養補助食品の提供や間食など配慮をしている。その都度、ご家族様にも報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の清潔保持のため、入浴日以外でも入浴を行ったりと、臨機応変に対応している。外出支援では複数回にわかれて調整し、外出先で食事を行うなど、計画を立てて実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カットや花見などの外出を行い、楽しみをもつことができるように、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は往診体制をとっています。その中でも、家族様と相談を行い、元々のかかりつけ医を希望される利用者様に関しては、通院の対応を行っています。	近隣の医療機関の往診がっており、緊急時には同医院への協力を仰ぐ体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護体制を整えており、週に1回訪問していただいた中で、健康管理等の相談を行い、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関して、医師、本人、ご家族と連絡を取りながら、対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでどの日常生活レベルまで対応することができるのか、早い段階でご家族様との相談を行い、必要に応じて別病院への移行や病院受診の対応を行っている。	現時点では看取りケアは実施しない方針である。医療依存度の増加や体調が悪化した場合など、状態変化が見られ始めて際には重症化する前に家族に相談し、転居等に向けての準備を進めるよう促している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修等への参加の促しや、リスクのある利用者に関して、主治医や訪問看護師への連絡手段の確保を行っている。AEDの勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の協力の元、年に2回の消防訓練、他災害に備えた備蓄品の確保、研修等への参加を積極的に行っている。	消防署の協力を得ながら消防訓練を実施している。備蓄食を実際に調理する想定訓練も行っており、調理が味に関する課題の抽出も独自に行い有事に備えている。	自然災害に被災したと仮定した想定訓練において、備蓄食の調理場面で提供スピードや味、硬さの面で課題の抽出に至っている。現時点で抽出した課題の改善に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	可能な限り、利用者様の意思や希望を尊重している。丁寧な言葉遣いを心掛けている。	すべての居室にトイレが設置されている。利用者に対しては下の名前で呼んだ方が反応がいいなど、ケアの手法の一つとして利用者の呼称を変える以外には、名前に「さん」の敬称をつけることを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が安心して自己決定をできるような環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の趣味や好みを把握し、レクリエーションや日常生活に取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	つめが伸びていないか確認し、必要があればきっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションの中で1人1人の好き嫌いを把握し、好みに応じた食事を提供できるよう工夫している。盛り付けにも気を配り、食事を楽しんで頂けるように工夫している。	食事は手造りにこだわっており、アレルギーや好き嫌いによって食べることができないもののある利用者には代替メニューを提供している。同一法人内に障害者の方が働くレストランもあるため、外食や行事食としてもデリバリーとしての活用も行っている。 また、敷地内の畑で野菜や果物を育て、収穫後に利用者と食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動量や健康状態、嚥下能力など食事摂取量に個人差があるため、1人1人に合わせ食べ物も調整している。水分量が少ない方には、声かけも積極的に行い、紅茶の提供など水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、義歯をしている方は、必ず義歯を外しての洗浄を行っている。口腔内に食物残渣がないようにチェックし、口腔内の健康維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握して、間隔が空いている方には、声かけを行っています。	利用者の排泄状況はチェックシートで確認し、日中と夜間でおむつやパッドの種類を変更したり、居室内にポータブルトイレを設置したりする他、パッドの定時交換やトイレ誘導など使用物品や介助方法を変更することで排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、排便を促しやすいようにバランスの取れた食事内容、毎日の運動を行うようにしている。 また、必要に応じて下剤等の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に対して拒否のある方には、声かけを行ったり、日にちを変えて別日で入浴してもらおう等の工夫をしている。	浴室はユニット内の個浴の他に、別棟にシャワーキャリーごと入浴ができるような作りの、離れの温泉施設のような浴室がある。同浴室はまたぎ動作が困難な方でも、スロープを使い湯船につかることができるような構造になっており、温泉施設のような内装も相まって、入浴の時間が特別なものとなるような工夫をしている。なお、個浴での入浴介助を希望される方に対しては希望通りの介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体操やレクリエーションを行い、天気の良い日には日光浴など、夜間によく眠ることができるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携して服薬支援を行っている。服薬内容の変更があった際には、申し送りを行い、スタッフ間での情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや花壇、野菜畑の草取りや水やりなど、出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。特に自分たちで育てた野菜を収穫した際には、とても喜ばれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や駐車場までの散歩を行います。季節に応じてのお出かけ、昼食に外出の機会を設け参加して頂いています。ご家族様と一緒に外出される利用者様もおられます。	近隣の観光施設へ出かけて行ったり、買い物や外食の目的でドライブに出かけることがある。また普段から、施設周辺の散歩を希望される方には、気候と相談しながらなるべく外出の機会を設けるように尽力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設内での金銭管理はスタッフで行っているため、必要なものや購入希望があれば、預り金にて購入する対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、施設内での本人の状況がわかるようお便りと一緒に写真を送付している。また、各棟に携帯電話を管理しており、連絡があった際には、本人と家族で話を行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った行事を取り入れるようにしている。 野菜づくり等、成長を楽しみながら窓から見えるような工夫をしている。	季節ごとの飾りつけを利用者と一緒で作成している。2か月程で飾りつけの内容を変えている。掃除は拭き掃除まで毎日行っている。敷地内の畑で野菜や果物を育てており、収穫した野菜や果物は実際に食べ食の楽しみや季節感を味わうことに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人の側にいてもらったり、好きなTVを見てもらい、穏やかに過ごせるような配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッド、本人様が自宅によく使用されていたソファを居室に置くなど配慮している。 ベッドの位置や向きなど本人の能力に応じた環境づくりに努めている。	居室内の清掃は職員が毎日行っている。居室内の家具は利用者が入居前に暮らしていた環境になるべく近づけるようにしており、利用者の中には畳を持ち込んでいる方もいた。居室内の環境調整には常に注意を払っており、職員間で意見を出し合いながら居室の環境設定に勤め、居室内での転倒リスクの軽減が図れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるように、必要箇所に手すりの設置をしている。 わかる利用者様には文章を書いて理解できるような対応を行っている。		